D41

初進者の爲めに
ハリストス正教の

# 教理略解

繪入
簡明

252
401

至聖生神女

初進者の爲めに

ハリストス正教の

# 教理略解

水島行楊編著

明治三十九年七月
東京 正教本會編輯所

明治
39 7 21
内交

# 目次


| 章 | | 頁數 |
|---|---|---|
| ㊀ | ハリストスの正教は我等に何を教ふるか。 | 一 |
| ㊁ | 惟一の神、造物主、及び至聖三者の事。 | 三 |
| ㊂ | 神、救世主イ、ス、ハリストスの事。 | 七 |
| ㊃ | 神、審判者の事、及び義人と不義人の運命。 | 十六 |
| ㊄ | 神、成聖者及び教會の事。 | 十八 |
| ㊅ | 神、成全者の事。 | 二十七 |
| ㊆ | 四つの終局、吾人が罪を慎み眞生命に進む爲に特に心に銘記すべき事。 | 二十九 |


特49
228

# ハリストス正教の教理略解

## ㊀ 正教は我等に何を教ふるか。

世の中に造りたなつた神様のお教になつた宗教は唯一つあるばかりです、眞に悉くの人々は永遠の生命と限りなき福樂を教ふる道は唯一つであります。其は何であるかと申すに、斯の教を知らない人は、妄りに耶蘇教とか露教とか正教であります。まだ斯の教を知らない人は、妄りに耶蘇教とか露教とか正教であります。

國一人の教ではありません。又少しの惡いとも間違ひもありません。全く善いことばかりの教、全く正しい道であります。凡そ我らの爲に何が一番よろこばしいと曰て、人々は一日〳〵と死ぬる日が近くなつてをるかなしい中に、永遠の生命を見出すといふより喜ばしいことはありません。此世の福樂は皆限りがある、其も容易に得られない苦しい中に、神の正教は之を信ずる人々に、限りな

き福樂を示し、乃ち苦しき罪を赦して樂しき救ひを與ふる者であります。されば皆樣は世間の惡口などに頓着なく、どうでも斯の教を聽て善くお考へになることが肝要であります。

斯く永遠の生命と限りなき福樂に就くには、正しき信仰と善行が必要ですが、此小冊子には先づ信仰のことを述べましやう、信仰とはまだ目には見なくとも耳に聞て心に悟り、斯の事は眞であると確かに承認ることで、救ひの神に悅ばるゝには、一番に、此信仰が無くてはならぬ大切の德であります。

教會に於て、信仰の教は、信經十二條に見えてをります。此中に救ひの爲に極めて大切なる教理、即ちハリストス正教の定理を簡明に顯はしてあります。是から其順序に依て大略を解明しましやう。

## ㈡ 神、造物主の事。

第一條、我信ズ一ツノ神、父、全能者、天ト地、見ユルト見エザル萬物ヲ造リシ主ヲ。

此に『一ツノ神、父』とある通り、眞の神は唯一つです、決して二つとある者ではありません、まして神が百も千もあると思ふのは斷じて誤りです。神を父と名づけるのは、人間の父が我らの本原である通り、神は悉くの人間の大本原であるからです。而して親も時としては惡い者もあるけれども、まづあたりまへの人間であれば、親が子を愛することは眞であります。そこで神が限りなく我ら人間を愛し給ふことを指して之を『父』と稱へます。即ち主の祈禱文にも『天ニ在ス我等ノ父ヤ』と申されてあります。斯く一般に父と稱へらるゝ神は始もなく終りもなく、誰からも造られず、只御自分獨りで限り無き先から御存在になって、何時まで經ても死ぬることなく變ることもないいと尊いお方であります。

斯く神は一般に『父』と稱へらるゝけれども、右第一條に曰てあるのは、も一つ特別に聖位の區別に於て『父』と稱へらるゝ神のことを敎へます。乃ち神は本性に於ては唯一つであるけれども、聖位に於ては三つである、―父と子と聖神―。此三つは決して別々に離れるともなく、又皆ごッちゃまぜになるともなく、各々其特質を保ちつゝ一体でありまして、何れが尊い卑しいの分ちなく、並に何れが後先等の別なく、全く同一に尊い神であります。

神には何等の形も姿もありません。聖書に、神の目とか神の手とか其他の言があるのは、只神の働きを象ッたばかりです。又聖像に、神、父を老翁の形に描き、神の子を若き姿に若くは幼兒に、聖神を鴿の形に描いてあるのは、聖書に示さるゝ意味に依て、少しでも人に分り善くする爲に、僅かに象ッたばかりです。

神を『全能者』と名づけるのは、限りなき聖德に依て、如何ような事でも皆出來る、皆行ふといふ能力を持ておいでになるからです。此全能は、全善と相伴ふ者で、神には微塵の惡もない、只善ばかりである、慈み、惠み、淨きと、正しきと凡て其善德は限りなく大なる者である、故に其能力も亦限りなく大にして何事でも聖旨に合ふことは出來ないといふことはないのです。

此の大なる能力に依て、神は『天ト地ト見ユルト見エザル萬物ヲ造リ』給ふたのであります。見ゆる者は、大空と日月星、地と水、動植物、終に人の身體の如き者、見えない者は、天使と、人の靈魂だけです。

神、造物主は、初めに目に見えない世界、即ち多くの天使をお造りになッて、それから見ゆる世界を六日の間にお造りになりました。いと善なる神のお造りになッた者であれば、其造られた者は、皆善なる者ばかりでした。けれども數多い天使の中の一部分の者は、一朝自由を我儘に用ひた所から、大恩主なる神に叛いて惡魔となりました。併し他の大部分は自由を誤らず、善く神に從ふて、今に全く善に固められて居ります。

六日の終りに造られたのは、全世界で一番始めの人間です、男はアダム、女はエワと名づけられて、五大洲の悉くの人類の元祖です。彼はいと美善な者に造られ

霊魂の限りなき生命は申すまでもなく、身體も死ぬることなく、主神の誡さへ守ッて行けば、何時までも活きて、病も苦みもなく、勿論死ぬることもなかッたのですが、忽ち蛇(惡魔)の誘ひに因て、主神の誡に反き食ることの出來ない樹の果を採て食て甫めて罪に陷り、地堂を逐出されて其身は様々な苦勞患難の後に死なねばならぬ者となり、霊魂は天賦の美を傷ひ、善には進み難く、惡にばかり引かれ易い不幸な者となりました。而して最後の不幸は永遠の生命を失ひ、乃ち限りなく滅ぶる事であります。元祖の罪は其血と偕に子孫に傳はりました、之を原罪若くは遺傳罪と申します。此外子孫なる我らが自ら作した所の罪がありますを之を自作罪と申します。

上帝救世主

## ㊂ 神、救世主の事。

第二條　又信ズ、一ツノ主イ、ス、ハリストス、神ノ獨生ノ子、萬世ノ先ニ父ヨリ生レ、光ヨリノ光、眞ノ神ヨリノ眞ノ神、生レシ者ニテ、造ラレシニ非ズ、父ト一体ニシテ、萬物彼ニ造ラレ、

**主イ、ス、ハリストスは、**前條の一つの神、父と一性一體の神で、決して父を離れた別の神ではありません。神は誰からも生れた者でないけれども此に主が『父ヨリ生レ』たと曰てあるのは、彼が聖位に於て、「萬世ノ先ニ……生レ」たとであります。丁度太陽から光の生れる樣な者で、其處に太陽があれば則ち光がある何れを後とも先ともいふことができない。其通り神の子は聖位に於て「父ヨリ生レ」たけれども決して神、父ばかり獨り先に在て、神子のまだ生れない時代が有たといふわけではありません。彼は父と共に萬世の先から在て、父と同じく尊い

神で、其萬物を造るに付でも、同じく之に與かッて一切の物は父と子に成就された者であります。

イヽス、』とは世を救ふ者『ハリストス』とは膏をつけらるゝ者の意味で、共にグレチヤの語であります。此は神の子が世に降ッてから附けられた名で、國々の語の訛りから、ロマカトリック(舊教)では之を「ゼズ、キリスト」と曰ひ、プロテスタント(新教)では「イエスキリスト」又は「ジーザスクライスト」などといふ人もありますが、正教は世に希臘教と呼ばるゝぐらゐで、聖書も精密なるグレチヤの原本を有ち、語もグレチヤの原音に最も近い所を用ひて、斯の通り『イヽス、ハリストス』と申します。膏をつけられる者とは、其昔エウレイの重大な禮儀から出たとで、乃ち舊約の時、預言者、司祭長、又は王に立てらるゝ者は、其前職に居る者から、首に膏をつけられて、神聖神の恩寵に浴するといふ禮法でありました。茲に主イヽスは御一人で此三職を兼ね、且つ從來の者よりも大に優ッていと尊い聖職でした。故に『ハリストス』といふ名は彼に最も善く合へる尊稱であります。

主イヽス、ハリストスを『神ノ獨生ノ子』と名づけるのは、彼一人が神父の本體から生れた神の眞の子であることを示すのです。普通信者のことを『神ノ子』と名づけることがありますけれども、此は神の本體の子ではなくて、只神の恵みに依て特に愛せらるゝ恩寵の子であります。

第三條　我等人々ノ爲メ、又我等ノ救ヒノ爲メニ、天ヨリ降リ、聖神及ビ童貞女マリヤヨリ身ヲ取リ人ト成リ、

救ヒ』とは我ら罪人が罪を赦されて永遠の生命を享けらるゝことであります。我らは元祖以降の罪に依て、永遠に滅びなければならぬ、受造物の中には何人も何者も之を救ふことができません。故に神の獨生子が特に天よりお降りになッて肉體を着て人と成り給ふたのであります。

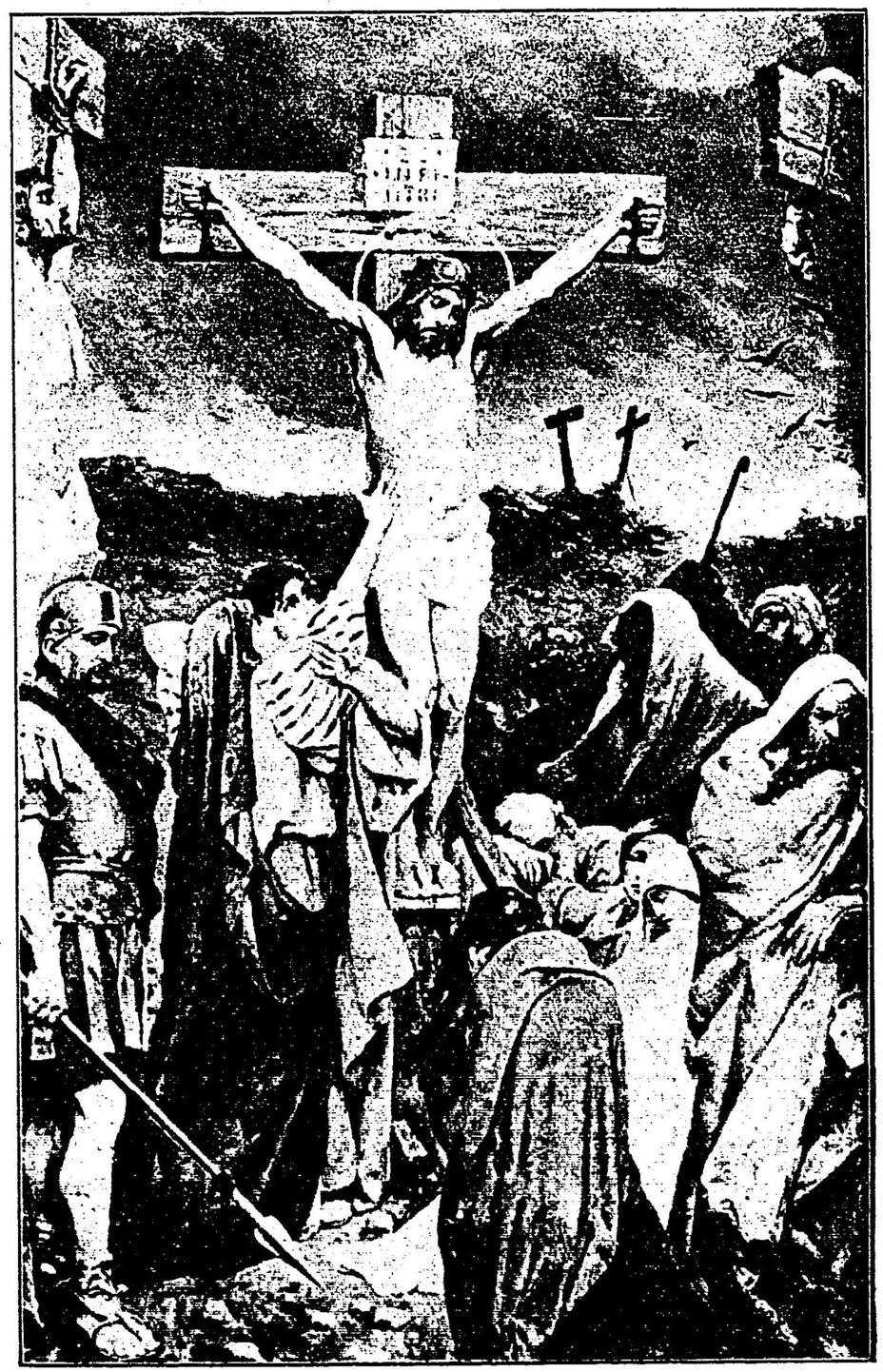
神の子は地にお降りになッたけれども、神の性を以ては、父と離れず、天の寶座に在て、又童貞女マリヤの胎内にお宿りになッたのです。彼が童貞女から生

れたのは、能はざる所なき神聖神の能力に因る一大奇蹟でした斯て生れたイ、ス、ハリストスは其一位に神と人二性を具へて、確かに眞の神であり、又眞の人でありました。人として通常の人と違ふのは、全く罪のないと、靈形共に此上もない聖なることでした。

童貞女マリヤは、固り神の性を生んだのではない、乃ち人の性を生んだのです、けれども通常の人を生んだのではない、眞に神と偕にせる者を生んだのです。故に正教會は、至聖なる童貞女を生神女若くは「神の母」と稱へてヘルビムより尊く、セラフィムよりも光榮なる者として讃美します。

前の挿畫は、イウデヤのビフレエムなる一洞穴に於てハリストス神の子の降誕の所です。向ツて左なるは神の母と義人イオシフ、右なるは牧者が嬰兒を拜みに來た所、上の方には天使の群が嬰兒を尊んで居ます。

正教會の降誕祭は毎年一月の七日であります、舊新教では十二月二十五日に行ひますけれども、グレチャの十二月二十五日は我が暦で一月七日にあたりますから、皆さんは我が日本の正教會でも十二月二十五日にクリスマスを行ふと思はれてはなりません。



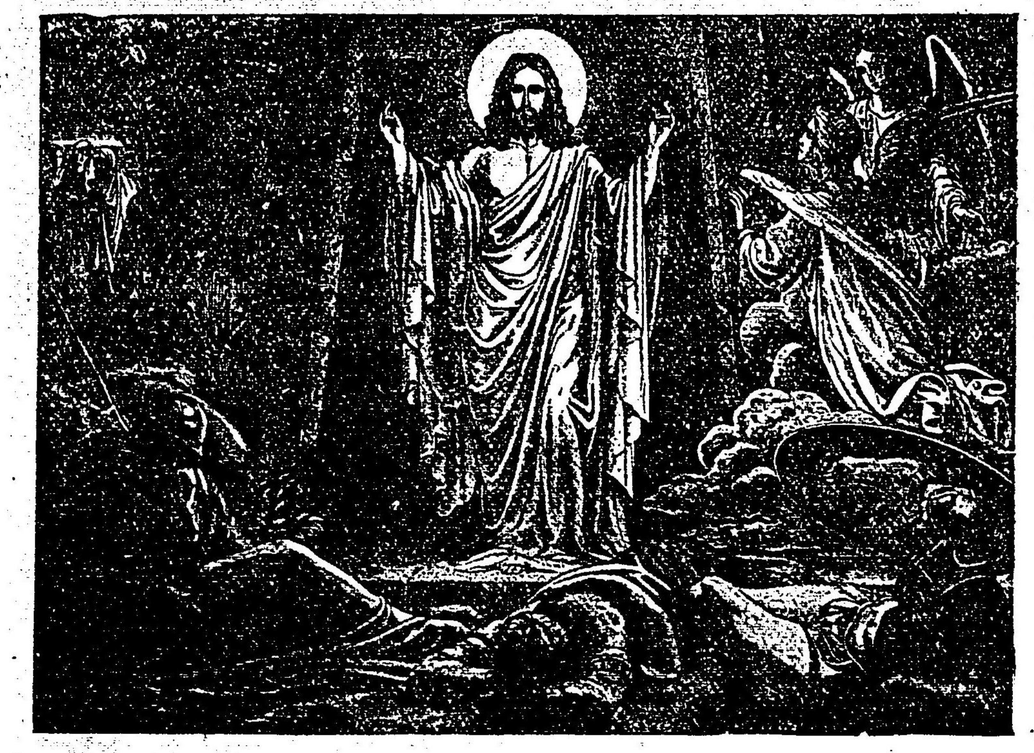
上帝子が十字架に釘せらる

## 第四條、我等ノ爲ニ ポンティ ピラトノ時 十字架ニ釘ウタレ、苦ミヲ受ケ、葬ラレ。

我等萬世億兆の身代りに立て、悉くの罪を贖ひ、其靈魂を滅び から救ふ爲に、ハリストス神の子は、御身に少しの罪もなくして甘んじて異邦の太守ポンティイ ピラトの亂れた法廷に立ちイウデヤ人らの苦めと辱めを受け、十字架に釘うたれ、實に名狀するともできない甚だしい苦みを受け、死んで葬られたのです。

斯く苦み死んだのは、人の性ばかりで、固り神の性ではありません。けれども神の性は、主が人の性を受けて以來、少しも離れることなく、人の性が死んで後にも、神の性は彼れの靈魂にも、肉體にも偕にして居ました。乃ち主の靈魂は神の性と偕にして、地獄においでになって古來の義人らの靈魂を救ひ出し、又主の十字架の右に懸って ゐた所の盜賊の痛悔を記憶して其靈魂を樂園に引連れました。

主の死は、罪なき いと尊き神人の死であるから、其價の尊いとは限りなく、罪に萬民の罪を贖ふばかりでなく、乃ち進んで之に永遠の福樂を授けて下さ



ВОСКРЕСЕНИЕ ГОСПОДНЕ

る とは 確か です。けれども 人は、自ら 彼を 信じて 悔改 と 敬虔を 以て 彼れの 有難き 功德に 與かる とを 勉めなければ なりません、神の子が 折角の 大功德も、不信 不悔の 人には、何の 關りも ありません。故に 我らは 速かに 悔改して ハリストス 救世主の 大仁慈を 恃み、心から 右の 手で 十字架を 描く 者と ならねば なりません。

第五條　第三日ニ 聖書ニ 應フテ 復活シ、





此は 主イ、ス、ハリストスの 人の性が、神の性の 能力に 依て 死より 復活されたことを 申したのであります。

ハリストス 救世主の 事業は、一も 其時々 偶然に 起ッたのでなく、遠く 幾十百年 幾千年の 前から 預言せられ、又は 預象せられて ありました。此らの 事は、皆 舊約聖書に 詳しく 錄されて ありますが、今 ハリストスの 光明なる 復活に 依て 此らの 預言 と 預象は 悉く 實際に 合ひました。

ハリストスの 復活は、彼れの 十字架に 依て 全く 救ひの 成就した 證據であります。神の子が 惡魔に 勝ち、罪なき 者の 死を 以て、罪に 因る 死を 滅ぼし、而して 彼は、我らの 爲に 復活の 初め、生命の 首と なりて、之を 求むる 者に、愈々 復活 と 生命を 賜ふ 確かな 標徵で、あります。

右の 圖は 光明なる 復活です、敵の 附けた 番兵は 怖れて 倒れ、天使は 驚いて 讃美し 携香女は はるかに 主の 墓に 參り よる 所が 見えます。

第六條　天ニ 昇リ、父ノ 右ニ 坐シ。

主イエス、ハリストスは、復活後四十日目に、其人の性を以て『天ニ昇リ』、我らの爲に天國に入るの魁となッたのです。『父ノ右ニ坐シ』とは、彼が人の性を以ても、神、父と同尊同權を御享けになッたことを申したのです。

## 第七條　光榮ヲ顯ハシテ、生ケル者ト死セシ者ヲ審判スルニ還來リ、其國終リナカランヲ。

### ㊃ 神、審判者の事。

今まで救世主たるイエス、ハリストスは、後に審判者として、人々を裁判し、其善惡を御覽になッて、微塵も違はぬ所の義しい賞罰をお下しになります。其裁判は二通有て私審判と公審判と申します。

私審判とは、人が死でから、其一人の、靈魂について、其一生の間なした善惡を試みられて、惡なる者は惡魔に任せられて地獄に下り、善なる者は天使に携へられて天國に昇ります。尤も其賞罰は各人のなした功罪の大小に因て差異があります。

公審判とは、世界の終りに、人種と時代に論なく、何宗教何派の人でも、何國の民でも、皆一時に神の臺前に立て其靈魂と、身體に受ける所の裁判です。此時までに死んで居た者は、皆神全能者の能力に依て復活し、まだ生存て居た者は變化して復活體となります。而して各々此世に於て行ふたと、言ふたと、思ふたとの罪と德に付て各々其輕重に應じて毛頭程も違はぬ報いを受けます。また公審判にならない前までは、罪ある死者も、教會の祈禱に依て救はれる望みがありますが、一回公審判になッてから、罪せられた者は、もはや何人も、如何なる方法も、地獄を免れることが出來ません。故に我らは今の中に早く悔改して神の救ひを願ふことが、何よりの急務です。

公審判は果して何時頃あるか分りません、けれども、其近づく前にはいろ〳〵な預徵があります。乃ち天國の福音が普く萬國兆民に行き渡る事、天には ふしぎな異象が現はれ、地には激烈なる戰爭、飢饉、疫病、其他の災殃があちらにもこちら

СОШЕСТВІЕ СВ. ДУХА НА АПОСТОЛОВЪ (Троицын день)

にも起る等の事であります。

## ㊄ 神、成聖者の事。

第八條　又信ズ、聖神、主、生命ヲ施ス者、父ヨリ出デ、父及ビ子ト共ニ拜ヤレ、讃メラレ、預言者ヲ以テ曾テ言ヒシナ。

聖三者の中の聖神は、父と子と同尊一體の神で、子が父より生れた如く、聖神は父より出づるといふ區別があるばかり、





其外神たることに於て何らの違ひもない全能萬善の主であります。

然るに聖神を特に『生命ヲ施ス者』と名づくるは、丁度神、父の働きが萬物を造ったことに於て顯はれた如く、神、子の働きが人を救ふことに於て顯はれた如く、聖神の働きは、萬物に生命を授け、特に人々に靈魂の生命を與ふることに於て著しいからであります。

聖神は、又舊約に於ては預言者を以て、世界の救ひに關はる種々なことを言ひ、新約に於ては聖使徒等を以て眞理と生命に付て種々な大切な教を施しました。

聖神は、又全地公會に臨んで定理を純正に固めました。

神聖神の恩寵は、祈禱と特に機密に依て、眞のハリステアニンに賜はります。其著しい者が七つ、即ち一は明智、上よりの智慧で、心を清め、善行をなすに付て賢くなると、二は聰慧、神の聖旨を悟る働き、三は謀略、神を讃揚げ人の靈魂を救ひに導く方法、四は勇毅、信仰を固め、いろ〳〵な誘ひに、勝つの力、五は超識尋常にすぐれて神の教が分り、人々に傳ふるに付ての知識、六は敬虔、祈禱と

凡て神の悦ぶ事業に熱する霊力、終に七は畏神で、萬善の根なる神を畏るゝの畏れを以て罪を慎み、誡を守る心、以上人生に最も貴き眞の進歩を圖るに缺く可らざる大切の恩寵であります。

前の挿畫は復活後五十日目に聖神が使徒らに降ッた所です、衆民に向ッて說教しつゝあるのは、聖使徒ペトル、其後に居るのは聖イオアンと生神女、其他多くの門徒らが見えます。

## 第九條　又信ズ、一ノ聖ナル公ナル使徒ノ教會ヲ。

教會とは、神立の牧者を以て導かるゝ衆信者の團體で、主神イヤスゝハリストスが親ら立てゝ下さッた眞理と恩寵の寶藏であります。俗に曰ふ天理教會とか何々教會とか曰ふ者とは大にわけが違ひます、正教會は唯一の神の聖なる身體であります。

教會の首は唯一の主イヤスゝハリストスで、此外に何人も何者も教會の首となるとはできません、是れ正教の定理です。世の中にはロシヤ皇帝が正教會の首だといふ者がありますが、まるで虛言です。此は大かたローマ教會にパーパを首として をるのに、正教會は之を認めないから、或者らが何か爲にする所あッて此僞りを流布したのでしやう。

ハリストスの教會はイエルサリムから始まッて普世萬國に弘まりました。(一)其時と所は違ふても、教には少しの違ひもありません、定理と率神禮を以て、聖規則と肝要なる定例を以て、全世界確かに唯『一ツノ教會』を成してゐます。(二)正教會はハリストスの十字架と聖神を以て聖せられ、古來無數の聖人を出し、今も人を成聖する禮法を以て教會の子を聖にしつゝあります、正教會は乃ち『聖ナル』者です。(三)正教會は時代と場所に限らるゝとなく、何時の世、何れの國民を問はず、ハリストス神を信ずる者を一齊に包括する所の『公ナル教會』です。(四)終に正教會は其初め使徒に依て與へられた教と權を、其まゝに傳へ守ッて今に至り、今より後も無論固く續けて行きます、是れ『使徒ノ教會』と『名づけらるゝ所以』です。

地の教會の外に『天の教會』があります、此は既に此世を逝て天國に在る生神女と聖人らの群です、諸天使も天の教會員です。彼らは目に見えずして地の教會と一體を成し、我らの爲に祈禱代求してくれます。そこで我ら地の信者も彼を至聖なる母とし彼らを神の友、克肖なる父として其祈禱を頼み、其代求を願ひ特に其聖像を尊ぶのは、我らの信仰上大に利益あるとで、神の旨に合ひ、全地公會の確定した所の定理です。固り唯一至上の神を拜むのと、天使や聖人らを尊ぶのとは、其意味が違ひます。絶對無限の拜みは只一つ主神に歸するばかり、他の聖なる者に對しては、各々其聖なる者に應ずるの尊敬です、而して彼ら聖なる者の中に顯はる、神の恩寵を讃美して、つまり彼らに依て其本原者たる、神を光榮するのであります。

## 第十條　我認ム、一ノ洗禮以テ罪ノ赦シヲ得ルヲ。

洗禮は機密の一番初めです。機密とは、決して世間でいふ警察の機密とか政府外交の機密とか曰ふ者とは、全くわけが違ひます。教會の機密とは、神が人に救ひの恩寵を授ける爲にお立てになった聖なる禮法です。少しも其處に政治や軍事などに關はる樣な意味の影もありません。

正教會の機密は七つあります、—洗禮、傳聖膏、又(堅振)、聖體、痛悔、神品、婚配及び聖傳油です—。

〔一〕洗禮は、之を領くる者が、司祭から、父と子と聖神の名に依て、三回水に沈められ、原罪と自作一切の罪を赦されて新なる生命を享くる機密であります。洗禮は靈魂の生れです、故に一生に一度限り、決して二度領けるとはできません。此機密を領けるには、悔改と信仰が必要です、けれども まだ智慧の啓けない小兒等は、其父母又は代父母の信仰に依て領洗するとが出來ます。又病人などが危急に迫り司祭を招く猶豫のない時は、(リステアニンは男女に論なく、洗禮を攝行するとが出來ます。

〔二〕傳聖膏は、主教に依て聖にせられた膏を、信者が其額、と耳、其他の部分に、つ

けられて、靈魂の生命を固め、神の國に成長させる所の機密です。此れも一生に一度限り行はれます。

〔三〕聖體は機密中の機密ともいふ最もありがたい恩賜です。乃ち信者は聖なるパンと葡萄酒の形を以て、主イエスハリストスのいと尊き體と血を領けて親しくハリストスと體合し、永遠の生命を嗣ぐ者となる機密であります。此畏るべき機密を領ける には、先づ痛悔を以て靈魂を淨め、齋と祈禱を以て善く必の準備を致さなくては なりません。

〔四〕痛悔は、領洗後に犯した罪を正直に神父の前に認めて、彼から罪を釋く言を受ける時、目に見えずして其處に臨み給ふ主イエスハリストスから一切の罪を赦さるゝ機密であります。靈魂の生きてをる信者は、少くとも年に一度は痛悔して聖體を戴くべきであります。

〔五〕神品、他の機密は、司祭が行ふことが出來ますが、此機密は只主教が行ふばかりです。乃ち教會の規則に依て選ばれた人に、主教が手撫の禮に由て、之を立てゝ輔祭より司祭となし、以て機密祈禱を行ひ、人々を教へ、信者を牧する所の恩寵を與ふる所の機密です。

〔六〕婚配、此は法に合ふて婚禮するとの定ッた男女に、司祭が祝福して、善い子が生れ敬虔の道に育てらるゝと夫婦互に貞操と淨き愛を守りて永遠の生命に進むとの爲に、主の恩寵を賜る所の機密であります。

〔七〕聖傅油、此は重病者に、司祭の祈禱と油を傅けることに依て、罪を赦され、病のなほさるゝ機密であります。此機密に依て、今まで死ぬるばかりの大病人が助けられたことは、毎度あります。けれども其最も肝要な所は靈魂の病を癒すと、即ち永遠の救ひに在るので、身體の病の遂になほると否とは、特に神の聖旨と本人らの信仰に關はることを心得てゐなくては なりません。

聖ラザリの復活

## ㈥ 神、成全者の事。

### 第十一條、我望ム、死者ノ復活。

此は世界の終りに悉くの死者の身體が、全能者の能力に依て、再びもとの靈魂と一つになッて、もはや死ぬることもなく腐ることもない活きた人となるといふ教理を言顯はした箇條です。

此時になれば善人も惡人も共に復活するのです、けれども、光榮の身體に復活して限りなく福樂を享けるのは善人ばかりで、惡人は折角復活しても、罰を受けて限りなく苦むのですから、惡人の爲には少しもめでたいことでありません。惡人は惡魔と運命を共にして、靈魂も身體も永遠に消えざる火に焚かれ、死せざる蟲に咬まるゝばかりです。焚かれても咬まれても、死なずに只苦むばかり、痛悔したくても、もはや遲くてどうすることもできず、只泣て切齒するばかりです(マトテイ十二の五十、二十五の四、其他)。之に反して義人らの復活は、誠に善美な者です、彼らの最も福樂なる

は、乃ち次に曰ふ所の「來世の生命」です。

前の挿繪は死んでから四日にもなるラザリを ハリストス 救世主が、一言を以て蘇らせた所です。此は主が世の終りに悉くの死者の復活するといふ眞理を示す爲に、斯く公衆の前で行はれた者であります。

## 第十二條、並ニ來世ノ生命ヲ アミン。

**來生ノ生命**」とは、或は私審判後既に救はれた者のことをも申しますけれども、此に曰ふてあるのは、特に公審判後の生命を申したのであります、即ち前第七條に「其國終リナカランヲ」とある所の終りなき光榮の國の生命です。義人は此時に至ッて、靈魂身體共に永遠の福樂と限りなき光榮を享けます。其樂しき有樣と尊い容子は、とても今此世の如何なる言を以ても、如何なる事物を以ても、象ることが出來ず、全く心に想像するだけも出來ない此上もない大なる禍此上も完全なる樂み、尙永遠に進んで盡きざる光榮の生命であります。

此來世に於て、義人らは肉體を持てをるけれども、もはや婚配もなく、衣食などの煩ひもなく、丁度天使の樣な有樣で、光る義の衣を着て、親り三位一性の神に拜謁することに依て何時までも生きて居られます（聖詠卅五の十、十、六の十五、參考）。

## ㊐ 四つの終局。

我らは右の復活と生命の箇條に付て、特に四つの重大なる終局を忘れてはならぬ、其は死期、審判、地獄と天國です。之を記憶するのは肉體の慾と此世の虛榮を戒め、全靈全身を淨く守りて身後の救ひを求むるに利益であります。因て聖書から、特に斯の四つに關する敎訓を左に揭げましやう。

其一、死期に付ては、

「或富める人……自ら忖りて曰へり、……靈魂よ、汝には多年の爲に蓄へたる多くの貨物あり、息み、食ひ、飲み、樂めよと。然れども神は彼に謂へり、無知なる者よ、今夜汝の靈魂を汝より索めん、然らば汝が備へし所の者は誰に

んか」(ルカ十二の十六、十七、十九、廿)

其二、審判に付ては、

「[illegible]醒せよ、蓋し汝等は何の日、何の時に、人の子の來らんとを知らず」(マトフェイ二十五の十三)。「人の子は、其光榮を以て、諸の聖なる天使と偕に來らん時……」(マトフェイ廿五の三十一)。「凡そ墓の中に在る者は神の子の聲を聞かん、而して善を行ひし者は生命の復活に出で、惡を行ひし者は、定罪の復活に出でん」(イオアン五の廿八、廿九)。

其三、地獄に付ては、

「火のゲエンナ……、彼處には彼等の蟲死せず、火滅えず」(マルコ九の四十七、四十八)。「彼處に哀哭と切齒あらん」(マトフ、廿二の十三)。

其四、天國に付ては、

「義人等は永遠の生命に往かん」(マトフ、廿五の四十六)。「彼は我に生命の水の清き河を示せり、澄めること氷晶の如し、神と羔の寶座より出づ。……河の左右に生命の樹あり、果を結ぶこと十二次、……神と羔の寶座は其中に在らん、彼れの諸僕は、彼に奉事し、彼れの顏を見、……夜は彼處に無からん、燈と日の光を需めず、蓋し主神は彼らを照らす、彼らは無窮の世に王たらん。又我に言へり、是の言は信ずべくして、眞理なり」(默示錄廿二の一から六まで)。

聖使徒が神の啓示に因て斯く申され、斯く象らるゝ中に含む所は、尊くして確かに信ずべき眞理です。疑ふ人は妄信と曰ふかも知れませんが、我らに死期の有ることは決して疑ふべきでない、而して一回心を靜めて己が死ぬる日のことを憶へば、良心は必ず自ら己れを審判する、斯く己れ自らの審判さへ免れることが出來ない人が、どうして畏るべき神至上者の審判を免れることが出來ましやうか。公義なる審判は必ず我らの信不信と善惡を調べて、我らを天國か地獄の一方に往かしむる。どちらに往くか、之を決定するのは今の中です、どうして生氣ある內に善く考へて置かぬと、其時になッて、いくら悔て泣ても切齒しても、とても及ばない慘境に陷らねばなりません。

至愛の主大仁慈の上帝や我らを滅びより救へ、幷に我が同胞を救ひ憐めよ

アミン。

明治卅九年七月十五日印刷
同　年七月十八日發行

著者兼發行者　水島行楊
東京府北豐島郡巢鴨野川村大字四ヶ原八十六番地

印刷者　神田靜次郎
東京市神田區美土代町四丁目五番地

印刷所　日本印刷株式會社
東京市神田區三崎町三丁目一番地
（電話本局一千八百四十番）

發行所　正教會事務所
東京市神田區駿河臺南紅梅町六番地
（電話本局二千五百六十九番）

定價金六錢

伊太利亞復活問答

新宮輝夫……定價金五錢、郵稅三錢。二錢。

大公聖ウラヂミル　揮毫二枚……定價金五錢、郵稅三錢。

初進者の爲めに
ハリストス正教の教理略解

水島行楊

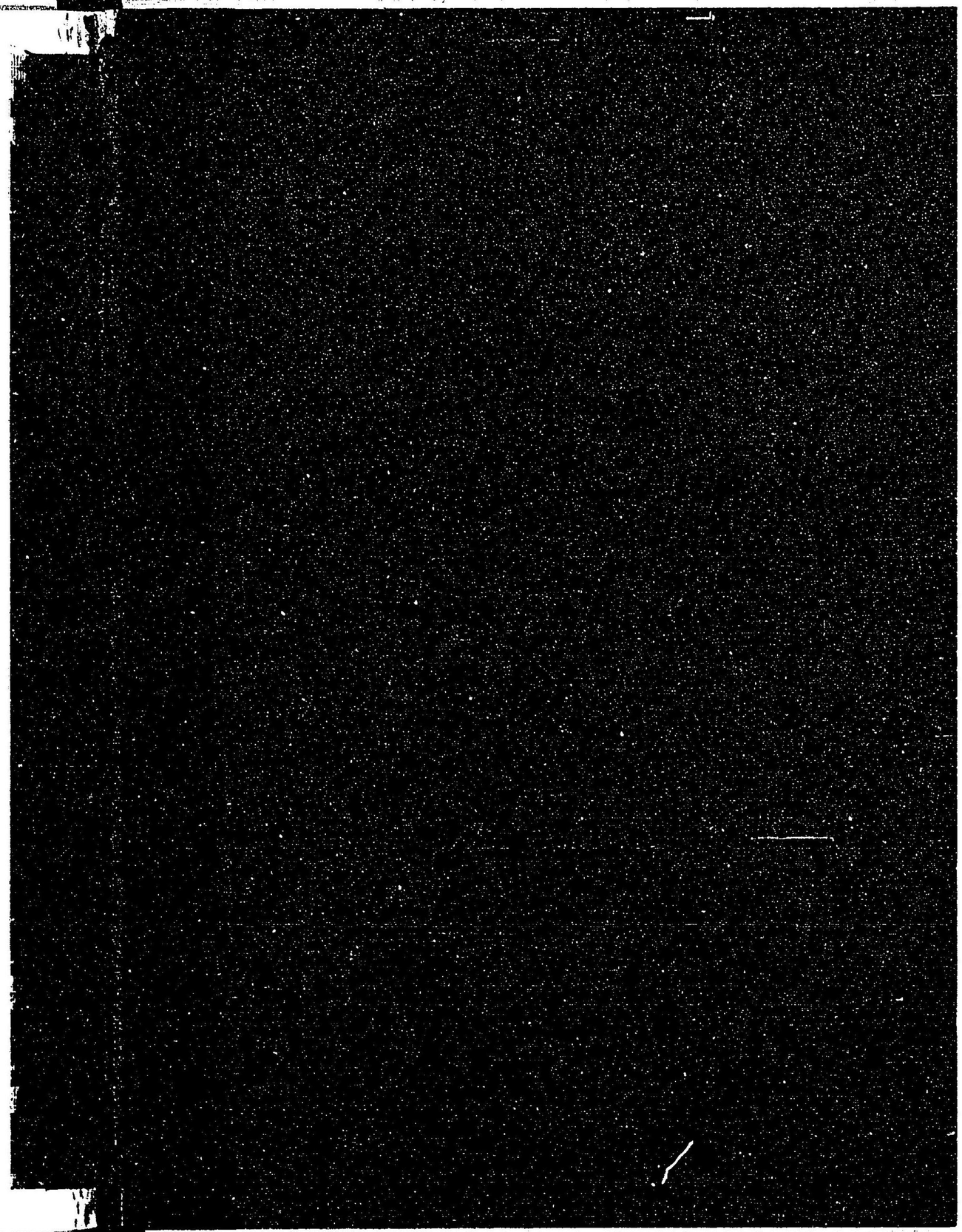
国立国会図書館

020760-000-8

特49-228

初進者の為めにハリストス正教の教理略解

水島　行楊／著

M39

ABI-0581